

在宅の食を支える トータルケア —地域連携の現状と課題

—— 特集にあたって ——

在宅医療を支えるためには、摂食嚥下障害への適切な対策に加え、誤嚥・窒息などのリスク管理、栄養管理を含む「在宅での安定した食生活」の確保が必要である。そのためには、患者本人の摂食嚥下機能や栄養状態の把握とともに、患者・家族の理解度、生活背景、在宅の支援体制など、患者の療養環境全体を総合的に把握し、多職種が共通の視点をもって連携する必要がある。

本特集は、第31回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会(2025年)公募シンポジウム2「在宅の食を支えるトータルケア：在宅医療の現状と課題」を基に、在宅での食支援の現状と課題をより深掘りすべく企画した。在宅の食を支える取り組みを行っている各専門の医療職より、その実践活動の現状報告と、医療・介護制度における現状と課題、今後の展望について発信することをめざす。読者の皆様にとって、在宅医療における食支援のあり方を再考し、よりよいケアモデルを描くための一助となれば幸いである。

関西労災病院 脳神経内科
野崎園子